
本ブックレットについて

グローバル人材の不足が産業界の経営課題となり、その後グローバル人材の育成が大学教育の一重要課題となりました。グローバル化の急速な進展により、地理的、国家的、文化的な境界線の重要性が低下し、国家間及び異なる地域や異なる文化背景の人々の相互依存が高まる中、これまでにない速さで私たちの生活する社会の多様化も進んでいます。大学は、グローバル化と多様化が進む21世紀社会を先導する地球市民として生きていくことが求められる若者にどんな教育を提供すべきなのか、その教育の在り方を模索しています。

グローバル化の促進に伴い、世界では学生の国際的な流動性が高まっていますが、日本では2005年以降海外留学者数の減少が続き、日本人の若者の内向き志向が問題視されるようになりました。2012年に文部科学省で経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援事業が始まり、2014年からは官民協働による海外留学支援制度「トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム」も立ち上がりました。海外留学及び研修が学生国際化の教育施策として認識されるようになり、大学も海外留学プログラムの開発と促進に取り組んできました。

東北大学では、ここ数年、新入生が東北大学を選んだ理由の一つに、多様な留学機会という声が聞かれるようになりました。2013年に「人が集い、学び、創造する、世界に開かれた知の共同体」という将来像を提示し、教育のビジョンに「学生が国際社会で力強く活躍できる人材へと成長していく場の創出」を掲げてから、東北大学では全学を挙げて、グローバルな修学環境の整備を目指し、多様な海外派遣プログラムの開発と実施に取り組んできました。このブックレットは、その具体策として

進めてきた学部段階での短期派遣留学プログラムの拡充を中心に、本学の海外留学プログラムのカリキュラムと実施の仕組みについて、まとめました。

第1章では、この10年ほどの東北大学における教育の国際化を振り返り、特に海外留学がどのように位置づけられ、展開されてきたかを概観しながら、現在提供されている海外留学プログラムの概要を説明します。本章は、第2章から第4章で解説する本学の代表的な留学プログラムの背景的な情報を共有することを目的としています。

第2章では、東北大学の主力海外研修プログラムであるスタディ・アブロード・プログラム（以下、SAP）のカリキュラムと実施の仕組みを紹介します。SAPは海外協定校で英語学習及び文化社会体験を目的に3～5週間学ぶ、学部学生低学年に奨励している入門レベルのプログラムです。東北大学高度教養教育・学生支援機構グローバルラーニングセンター（以下、グローバルラーニングセンター）の教員5～6名で年間8カ国13大学で15プログラム程度を実施し、毎年約300名の学生を派遣しています。こうした入門レベルの海外研修プログラムはどの大学でも実施されていると思いますが、限られた教員数でより多くの学生に学習の質を保証し、かつ学習効果のあるプログラムを開発するのは挑戦的な課題です。5年をかけて開発してきた東北大学の事例を紹介します。

第3章では、SAPに次ぐ新しいプログラムとして2016年度より開発・実施している2週間の教員引率型ファカルティレッドプログラム（以下、FL）を取り上げます。なぜ、新たなプログラムを開発する必要があったのか、FLの目的、特徴、2018年度に実施した7つのプログラムの概要、プログラムの成果を、順を追って紹介しながら、FLの意義に迫ります。

また、類似プログラムの開発に関心のある方のために、プログラム開発・運営の具体的手法や留意点を「東北大学 FL ガイドライン」に沿って詳しく説明し、FL 担当教員が実際に直面した課題や解決策等を共有します。

第4章では、東北大学の交換留学制度について説明します。東北大学は国立大学の中でも協定校数が多いことを誇っていますが、このことは学生により多くの海外留学の選択肢を与えることにつながります。本章では、交換留学プログラムの概要、留学の阻害要因とその対策について説明し、短期研修から長期留学へ、また、留学の効果を最大化するために取り組んでいるさまざまな活動を紹介します。

このブックレットは、大学を中心に高等教育機関で海外研修プログラムの開発と実施を検討されている教職員の方々を想定読者として編纂しました。新たにプログラムの開発に取り組まれている、またプログラムの見直しを行っているという海外研修担当者の皆様の一資料としてご活用いただければ幸いです。
